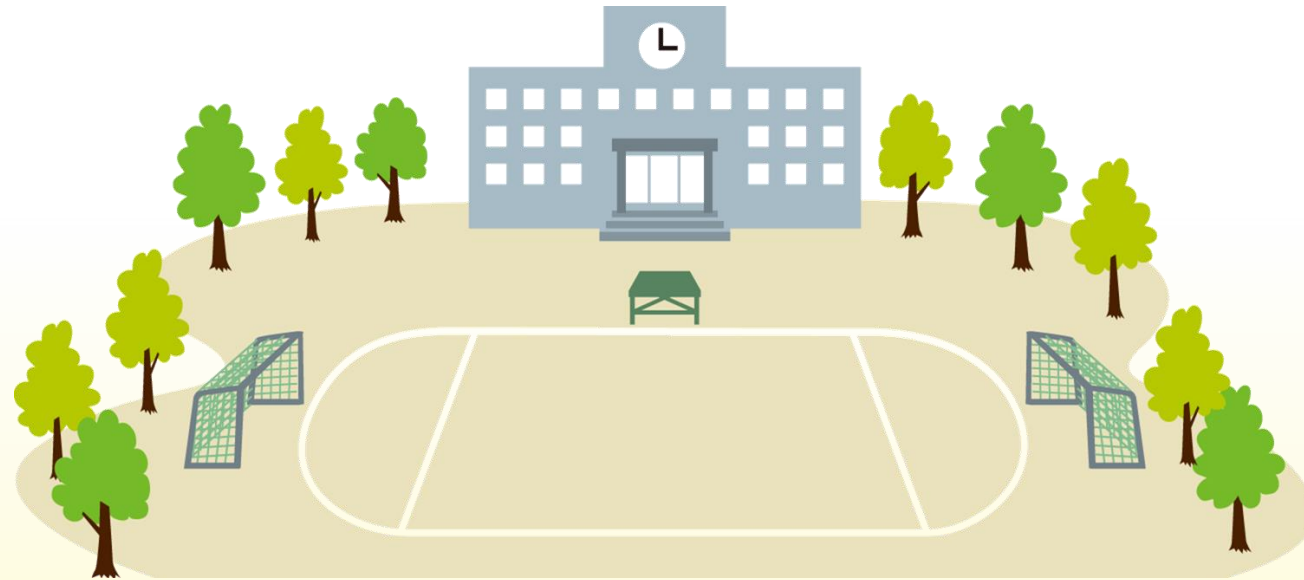




佃地区の学校運営について



もくじ



- 1 はじめに
- 2 学校の現況
- 3 学校再編
- 4 今後の進め方

はじめに



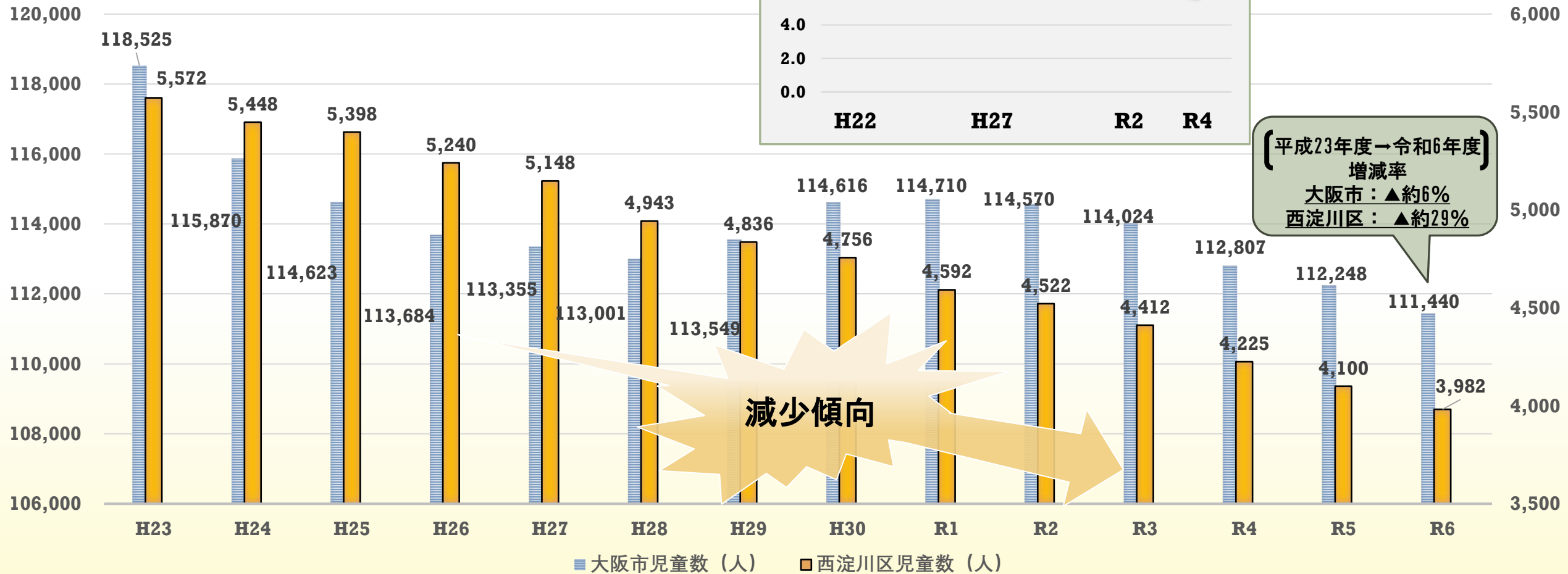
- 大阪市では、有識者で構成する「大阪市学校適正配置審議会」からの答申をふまえ、子どもたちが将来、社会生活を営むうえで必要な社会性や困難に立ち向かう力を獲得して成長していくために、学校は一定の集団規模であることが必要として、学校配置の適正化に取り組んでいます。
- 今後、さらなる少子化が見込まれるなか、将来を見据え、児童の教育環境の改善を第一に、適正配置の着手の基準や進め方について、令和2年4月に大阪市立学校活性化条例を改正施行し、あわせて大阪市立小学校の適正規模の確保に関する規則が制定されました。
- 本条例の内容では、小学校の規模を適正規模である12学級から24学級にするよう努めること、また、適正規模を下回り、今後も適正規模になる見込みがない小学校について、学校再編整備計画を策定・公表することとなっています。
- 西淀川区では、佃南小学校を適正規模とするため、令和2年4月に佃西小学校校地において佃南小学校と佃西小学校が統合しました。



2 学校の現況



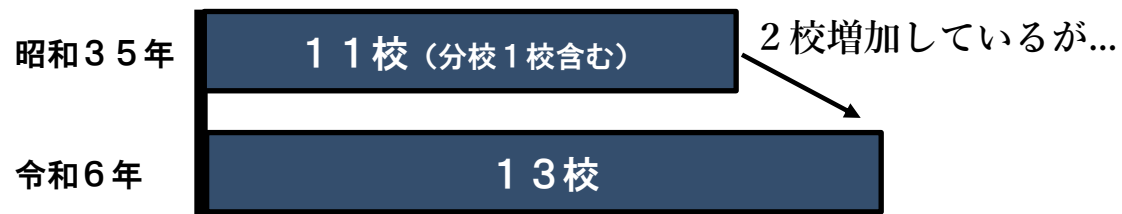
児童推移（市・区）



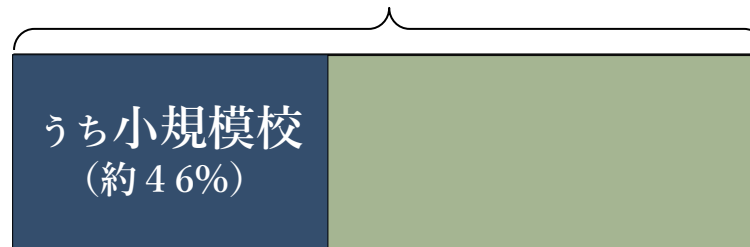
学校の小規模化



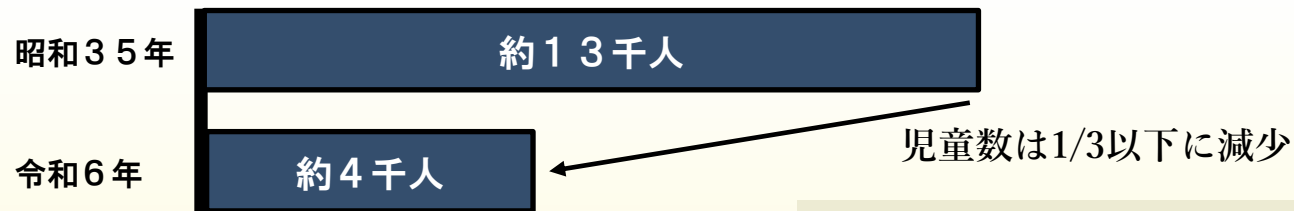
区内小学校数



区内小学校: 13校



区内児童数



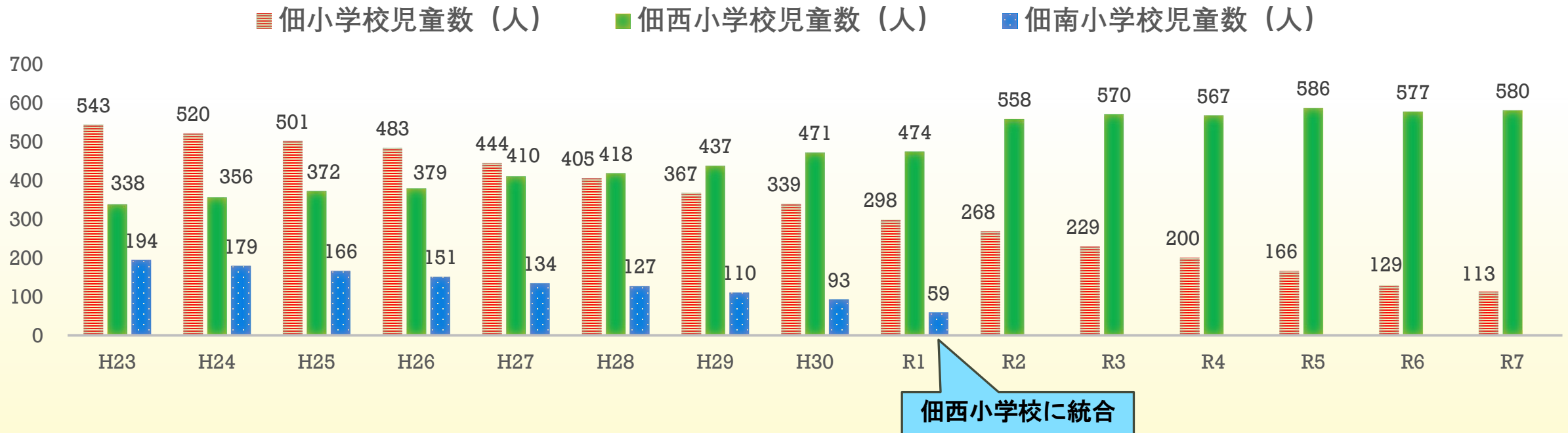
- ・区内小学校の6校に単学級の学年がある。
- ・そのうち、3校は全学年単学級。

区内でこどもの数が減っているが、
学校数は増加しており、1校あたりの小規模化が進んでいる
区内小学校13校中6校に単学級の学年があり、
クラス替えが出来ないことや教員の負担等で課題が生じている

児童推移（佃地区）



佃西小学校の児童数は近年、概ね横ばいであるが
佃小学校の児童数は平成23年度に比べて
4分の1以下に減少している



各学年人数・学級数・就学前人数



	6年		5年		4年		3年		2年		1年		計	
	人数	普通学級数	人数	普通学級数	人数	普通学級数	人数	普通学級数	人数	普通学級数	人数	普通学級数	人数	普通学級数
佃小学校	31	1	20	1	22	1	24	1	4	1	12	1	113	6
佃西小学校	106	3	93	3	88	3	104	3	96	3	93	3	580	18

(令和7年5月1日時点 児童数)

適正規模：クラス替えができる
12学級から24学級まで

町丁目別就学前人数

町丁目名	区域の学校	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	0歳
千舟1丁目	佃西小	0	2	2	2	1	2
千舟2丁目		17	20	13	14	9	10
千舟3丁目		10	8	4	8	14	11
佃1丁目	佃小	15	18	17	17	20	22
佃2丁目	佃小・佃西小	18	15	17	13	21	11
佃3丁目	佃西小	18	26	17	17	16	18
佃4丁目		3	2	3	1	3	2
佃5丁目		16	19	7	18	11	17
佃6丁目		0	0	0	1	0	0
佃7丁目		0	0	0	0	0	0
計		97	110	80	91	95	93

(令和7年3月末日現在)

【通学区域】

・佃小学校：
佃1丁目
佃2丁目1番～14番・15番（1号～18号・103号～106号）
※佃コーポ1～6棟は除く

・佃西小学校：
千舟1～3丁目、
佃2丁目15番19号～102号、
佃2丁目15番1～6-〇〇〇号
（佃コーポ）、
佃3～7丁目

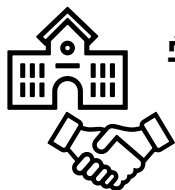


就学前児を含めこどもの人数が大きく増加する見込みがない

小規模校の利点と課題



利点

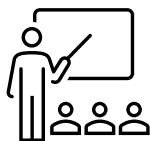


学校がまとまりやすい

- ・一人一人に目が届きやすい
- ・在校生がみんな顔見知り



児童一人一人が活躍できる
機会を設けやすい



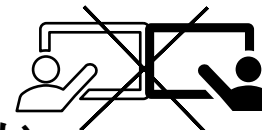
補充指導や個別指導を含め
たきめ細かな指導が
行いやすい

課題



人間関係が固定化

- ・クラス替えが出来ない
- ・様々なタイプのこども同士
で切磋琢磨する機会が少ない



多様な指導方法がとりにくい

- ・各学年に複数教員がいない
ため、教員同士のカバーが
出来ない



一部の行事・活動の教育的効
果が得にくい

- ・リレーなどのクラス対抗が
出来ない。合唱合奏や修学
旅行の方法が制限され本来
の目的が達成しづらい



授業準備や指導研究に充てる時間
が少なくなる

- ・学校全体の教員数が少なくなる
ため、教員一人当たりの校務負
担が大きくなる



3 学校再編



学校再編の検討



現状

佃小学校においては全学年単学級であり、集団活動等で教育的効果が得にくい等の学校運営についての課題があることから、早急な教育環境の改善が必要と考えています。佃小学校の学校再編については、隣接校である佃西小学校の校舎を活用した統合とすることが考えられます。（規則に基づき、学級数が適正規模である学校の所在地に設置します）

再編に係る課題

現在の佃西小学校校舎では、教室の改修を行っても、佃小学校及び佃西小学校の全児童を収容することができません。

地域事情

佃地区には2小（佃小学校、佃西小学校）1中（佃中学校）が存在することを考慮し、この度の学校再編を契機とし、佃地区の統一感・魅力の向上を図りたいと考えています。

については、佃地区が一体となる学校再編を検討しています。

特別な事情

佃小学校の1年生は12人、2年生は4人（令和7年度5月1日現在）であり、スピード感を持って学校再編を進めたいと思います。



学校再編の手法



【統合】

① 2 小学校を統合

佃西小学校の校舎を活用し、
佃小学校と佃西小学校を統合

(例) 佃西小学校と佃南小学校の統合



② 進学先の中学校を交えた統合

・ 小中一貫校

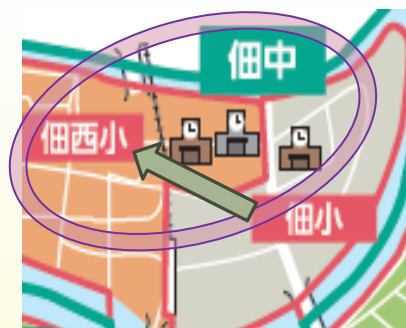
(例) 小中一貫校大池学園

(生野区、R4開校)

・ 義務教育学校 (※)

(例) 義務教育学校生野未来学園 (生野区、R4開校)

(※) R6.4以降の設置の場合、広く児童生徒を受け入れる全市募集校のみ。



【通学区域の変更】

- ・ 佃2丁目全体を佃小学校校区としても単学級は解消されない
- ・ 通学区域を変更しても根本的な解決にならない

町丁名	区域の学校	5 歳	4 歳	3 歳	2 歳	1 歳	0 歳
千舟1丁目	佃西小	0	2	2	2	1	2
千舟2丁目		17	20	13	14	9	10
千舟3丁目		10	8	4	8	14	11
佃1丁目	佃小	15	18	17	17	20	22
佃2丁目	佃小・佃西小	18	15	17	13	21	11
佃3丁目	佃西小	18	26	17	17	16	18
佃4丁目		3	2	3	1	3	2
佃5丁目		16	19	7	18	11	17
佃6丁目		0	0	0	1	0	0
佃7丁目		0	0	0	0	0	0
計		97	110	80	91	95	93

町
丁
目
別
就
学
前
人
数

(令和7年3月末日現在) 再掲

検討の要約と方向性



- ・ 学校の小規模化が進行しているため、教育環境を改善する早急な対応が必要
- ・ 現在の佃西小校舎のみでは、佃小学校と佃西小学校の全児童を収容することができない
- ・ 佃地区の統一感・魅力向上を図り、佃地区ならではの学校再編をめざす



佃中学校も含めた小中一貫校としての
学校再編をご提案

小中一貫校の教育方針イメージ



教育目標

心豊かに力強く生き抜き、未来を切り拓く力を育む

教育目標実現に向けた3つの柱

①こどもの主体性・オンリーワンの力を育む

★小中一貫校として9年間を見通した教育環境

・9年間を見通したつながりのカリキュラム（※）

小学生時からの中学教員等による専門性を活かした指導

・グローバル化・情報化社会に向けた特別カリキュラム

英語教育（希望者は小学校時から英検に挑戦）

STEM教育（計算力、論理的思考の育成）

(Science、Technology、Engineering、Mathematics)

科学 技術 工学 数学

②人それぞれ互いの「ちがい」を知り、多様な考えを養う

★多様性を学び、個性を伸ばす教育の推進

・教育活動全体を通じて行う道德教育の充実

自分事として考え、本音で語り合える授業の実施

・多文化共生教育の充実

お互いを尊重できる子の育成

・不登校支援の充実

小中教員の連携による9年間を通じた支援・指導

③地域のことを知り、地域への誇り・社会性を育む

★地域・企業との連携による教育の推進

・地域と連携した防災教育の充実

ジュニア防災リーダーの育成

・地域と連携した歴史・文化教育の充実

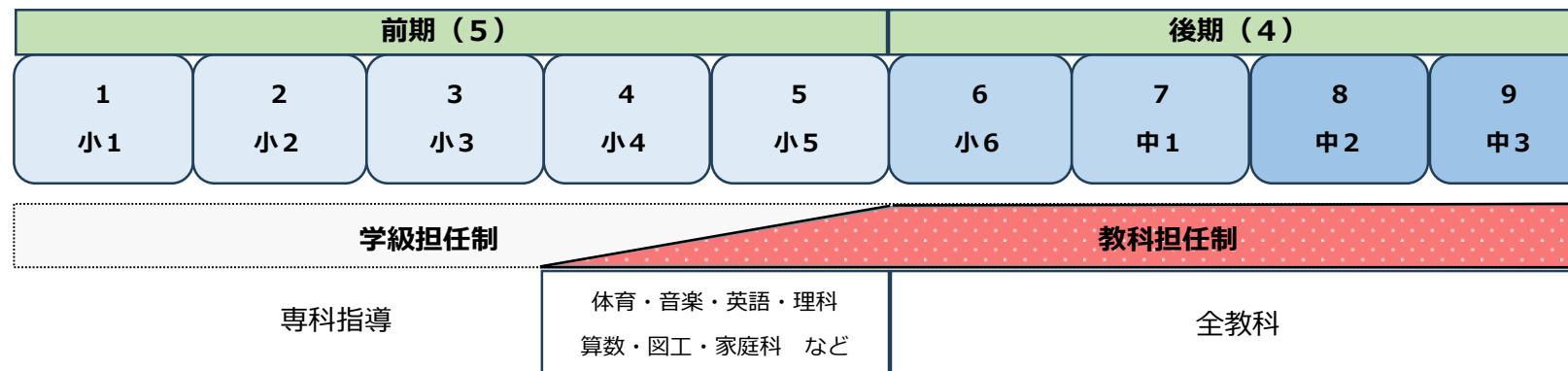
地域との連携による歴史学習の実施

・企業と連携したキャリア教育の充実

職場体験、出前事業

地域企業と共同で取り組む製品開発体験

※9年間を見通したつながりのカリキュラム（イメージ）



★中学教員等の専門性の高いスキルを
小学校の授業にも徐々に活用。

9年間を見通したつながりの中で、
ステップアップをめざします。

小中一貫校の利点・課題



利点

- ・小学生時からの中学教員等による専科指導
 - ▷教科指導の専門性を持った教員の熟練した指導による授業の質の向上
 - ▷複数の教員（学級担任・専科教員）によりこどもを多面的に見れる
 - ▷教員負担の平準化・授業準備の効率化など教員負担の軽減により、よりきめ細かい指導が可能
- ・小学校から中学校への円滑なステップアップが可能
（中1ギャップの解消：中学校への進学に不安を覚える児童が減少）
- ・小中教員の連携が密になり、より深くこどものことを理解できる
（9年間を通じたつながりのあるこどもの支援・指導が可能）
- ・小中学校の垣根を超えた、異学年交流の拡充
（上級生と下級生とのつながりの拡大、上級生におけるリーダーシップ・自他を思いやる心の育成など）

課題

- ・小中教員間での打ち合わせや合同研修等の時間の確保
- ・小中合同行事における発達段階に応じた内容設定

再編した場合の人数予測



	令和10年度		令和11年度		令和12年度	
	児童数	普通学級数	児童数	普通学級数	児童数	普通学級数
6年生	現小学校 3年生 1 3 1	4	現小学校 2年生 1 0 5	3	現小学校 1年生 1 1 5	4
5年生	現小学校 2年生 1 0 4	3	現小学校 1年生 1 1 4	4	1 0 9	4
4年生	現小学校 1年生 1 1 3	4	1 0 8	4	1 2 6	4
3年生	1 0 7	4	1 2 5	4	8 1	3
2年生	1 2 5	4	8 1	3	1 0 9	4
1年生	8 1	3	1 0 8	4	1 0 1	3
合計	6 6 1	2 2	6 4 1	2 2	6 4 1	2 2

※統合時期となる可能性がある令和10年度から表記

※本推計は、令和6年5月1日現在

校区図





4 今後の進め方



今後の進め方（イメージ）



令和6年度

令和7年度

令和8年度～

学校再編対象校
保護者説明会

学校適正配置
検討準備会

- 学校再編実施時期、
再編整備の手法、
学校の通学路、
その他

住民説明会

区担当教育次長

学校再編
整備計画案

教育委員会会議

教育委員会

学校再編
整備計画

学校適正配置検討会議

- 学校名、
校章、
校歌
標準服、
通学路の安全対策、
その他

改修等の設計・工事期間

お問い合わせ先



西淀川区役所 保健福祉課（こども福祉）
兼 教育委員会事務局 教育政策課 西淀川区教育担当

- ◆ TEL 06-6478-9822
- ◆ FAX 06-6478-9989
- ◆ E-mail : tk0015@city.osaka.lg.jp